



先輩に敬意を

正強会 会長 山中 敬



正強会の皆様お元気ですか。

日頃は母校正強高校（現奈良大学附属高校）に思いを馳せひたすら母校の発展を祈念頂いている事に、深く感謝と敬意を表すものであります。

昨年の総会には大変びっくりする事がありました。旧制

南都正強中学を昭和十五年に卒業された城陽市にお住まいの出島義男様の参加です。九十歳を越えていらっしゃるにも拘らず元気そのものでした。（ご本人の寄稿は昨年の会報に掲載済みです）

そもそもそのきっかけは、奈良大学生の東北出身の女学生の一人が、東北復興に文化財を通じて関わりたいの一心から京都新聞の「観智を見つめて」に掲載され、あれこれの経緯を通じて出島様がその方

は正強学園創設者の、故敷内敬治郎先生だと新聞に投稿されたのがきっかけでした。

また、同窓生としてうれしいニュースがあります。昭和三十六年卒業の畠製作技術者の梅尾峻弘様ですが、平成二十五年度の文化庁長官賞に輝いたことです。このことに

ついては、本誌に別途掲載をしていますのでご覧ください。

でした。

私は昭和三十八年卒業で、今年古稀（七十歳）になるのを機会に、工業科出身者に同期会を持ちかけました。そし

て恩師市川良哉先生（学校法人奈良大学理事長）の傘寿の開催に、奈良大学附属高校と改称され、また法人名も平成八年に奈良大学附属高校と改称されました。同年に奈良大学と変更され、また法人名も平成十五年に学校法人奈良大学と変更されています。現在の奈良大学附属の卒業生や在校生にとりましては、「正強」と言つても全く馴染まないものになつてゐると思われます。我々の学んだ質実剛健な時代とは、うつて代わ

り在校生の三割が女子生徒で、現在の名称ではイメージに合わないのではないかと思われます。毎年五月の総会に於いて卒業生の奈良大学附属高校の卒業生の参加が大変少ないのも、こういうことに起因しているのではないかと思われます。

終わりに、毎年五月の第三日曜日に母校で行つております正強会総会はどうか一人でも多くの会員を誘つて参加して旧交を確かめ合うことは勿論ですが、また若い後輩たちとも新たなる親交を深めて頂けたら幸いかと思います。

終わりに、皆さん方のご多幸とご健康をお祈りいたします。

今後は、奈良大学附属高校

の卒業生の比率が上がつて行き、正強高校の卒業生が減つていきます。これらを考慮しまして、昨年の総会で名称変更のご承認をいただき、その後一年をかけて新名称の検討をしました。今年度この総会において提案する新名称をご承認いただきましたならば、来年の学園創立九十周年に向つて新名称で出発いたしたいと思います。

その創立九十周年につきましても学園本部と協議すべきことであると思いますが、同窓会として何等かの形で記念事業に参加すべきではないだろうかと思います。このことにつきましては、今後皆さんのご協力を得ながら実行して参りたいと思います。

平成26年度 正強会総会のご案内

◆日時 平成26年5月18日(日)

総会の開催日は、毎年5月の第3日曜日となっています。

◆場所 奈良大学附属高等学校

◆内容 (1)総会(10:00~)

(2)懇親パーティ(12:00~)

◆会費 お一人1,000円(新会員の皆様は無料です)

たくさんの企画を用意して、皆様のご出席をお待ちしています。

くお願いく

懇親会出席の方は、準備の都合上、下記宛に連絡下さい。

1. TEL: 0742-41-8840
2. FAX: 0742-41-8843
3. メール: hsonu@nara-u-h.ed.jp
4. ホームページ: <http://www.nara-u-h.ed.jp>

同窓会(正強会)のおしおせ
送信フォームから



明年、創立九十周年を迎えます

学校法人奈良大学

理事長 市川 良哉

平素は、山中敬会長をはじめ会員の皆さまには、本校教育に格別のご支援を賜り感謝申し上げます。

本校は遡りますと、大正十四年三月奈良県知事の設立認可を受けて、敷内敬治郎先生によって創立された南都正強中学にはじまります。今日に至るまでには、時代の変遷と共に、幾多の試練がありましたし、現代の少子高齢社会の波は私学教育の存続を厳しく問い合わせております。しかし、ことうした困難に直面しながらも、建学の精神である「正しく強く」、「努力することの大切さ」を掲げて、社会に貢献する人材の育成に積極的に努めております。明年は創立九十周年の記念すべき節目を迎えます。

創立以後、昭和二十二年となり、同四十二年幼稚園本校は学制改革で高等学校

設置、同四十四年奈良大学文学部設置、昭和六十三年大學現キャンパスに移転、同時に社会学部増設、併せて奈良大学附属幼稚園に園名変更、平成八年高校現キャンパスに移転、同時に奈良大人奈良大学」に改称し、文字通り本学園は全国に知られるようになりました。この間、それぞれの学校園が送り出した卒業生諸氏が内外各界で活躍されている様子を、あちらこちらから直に伺うことは何よりもうれしいことになります。

わたしは二十代後半から数年、本校で国語科担当勤務しました。つい先日、昭和三十八年三月の卒業有志三十名が本年古希を迎えたのを慶び相集い、老生の傘寿を祝つて下さる会にご招待を受けました。卒業以来

本校は「一人ひとりを大切に」、「確かな教育と研究」を推進し、「堅実な経営」を標榜しています。創立九年をまえにして学園の一層されたことをお聞きし、さまざまに努力され社会貢献されたことは強い感動を覚えました。また、五十年前に教わった「閑さや岩にしみ入る蝉の声」の芭蕉ゆかりの山寺を奥さまと数回訪ねたといい、あるいは与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」とは忘れられないなどと聞くにいたつては教師冥利に尽きる思いでした。本校はまことに有能な人材を社会に送り出していると確信しました。

建学の精神のもと、本校に学ぶ在校生は先輩の後をうけて勉学に頑張っています。対外的には夏の高校野球大会甲子園出場も夢ではないと期待いたします。それぞれにご活躍の同窓生の皆さまのご支援は一層の励みになると信じます。少子化のこの難しい時代、卒業生の皆さんのお力添えなくして本校の発展はありません。

一切に、「確かな教育と研究」を推進し、「堅実な経営」を標榜しています。創立九年をまえにして学園の一層の安定と存続を目指します。皆さまのご健康を祈念し、ご支援をお願いし、ご挨拶をいたします。



昭和38年卒業生





奈良大附属の発展の道筋

奈良大学附属高等学校

校長 酒井 重治

正強会会員のみなさまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この春、二五一名の生徒が本校を巣立ち、正強会に加わることとなりました。彼らが、諸先輩方のご指導で本会の一層の発展に寄与できることを願っております。

平成二十五年度の本校の活動を振り返ってみますと、部活動の活躍が印象的でありました。伝統を誇る剣道部やバドミントン部は常連で、八月の全国総体に出場、またこの二月に行われました高校総体スキーの部に女子個人が昨年に続き二年連続の出場となりました。三月には剣道部男女団体でなぎなた部は団体個人で全国選抜大会に出場しました。なぎなた部は初出場でした。

野球部は甲子園出場はならなかつたものの、春の県

遣しています。

例年通りに語学研修旅行として、英数コースはキヤンベラを、文理コースはメルボルンを、標準コースはシドニーを訪問し、高校生たちとの交流活動をしてきました。

平成二十五年度末の教職員の退職は、理科の本庄先生、体育の山本恭先生、岳川先生、情報の谷口先生、五名の先生方が退職されました。

各先生方長年に渡り本校の発展に大きな貢献をしていただきました。各先生方長年に渡り周知のことあります。この場をお借りし、その功績を称えると共に、改めて感謝の意を表します。先生方のこれから的新たな人生のご多幸とご健勝を祈ります。

今年度は新たに三名の新任の先生方をお迎えしました。英語の穴田先生、理科の赤井先生、体育の江口先生の三名です。

四月七日(月) 平成二十六

年度の入学式を行い、三四一

名の新入生を迎えることになりました。

一年間のロータリーの交換留学生も二人受け入れて

います。一名オランダに派



ては、受験者数、入学者数共に昨年度より大幅な増となりました。推薦・専願合格者数は一八二名、併願での入学者数は一五二名、第二次入学者数は七名でした。定員を六十一名オーバーし、文理コースで一クラス増となります。

入学者増については正強会の会員の皆様方の側面から控え、一層の関係強化を図つていかなくてはなりません。来年度に創立九十周年を控え、一層の関係強化を図つていかなくてはなりません。

附属高等学校
教職員
平成二十六年四月一日現在

【学校長】	酒井 重治
【教頭】	福井 政彦
【教頭】	松田 稔
【常勤教員】	
新井 巧	赤井 伴教
岩部 真弓	穴田 亮介
大植 純子	井上 裕香
大倉 直子	江口 将弘
岡田 淳	垣谷 圭史
川勝 啓史	大塚 章五
岸本竜之介	菊田 克典
木原 英輔	奥山 敬史
齊藤 敦	北岡 克典
沢田 美史	木村 佳子
杉本 浩二	阪口 友介
竹田 靖彦	澤田 悅幸
田中 一訓	木村 伸浩
寺川 彰一	吉岡 伸浩
中野 千夏	寺井 公彦
中井 翔五	上田 高央
寺川 彰一	竹本 春美
中井 朋子	佐々木奈生
西田 千夏	川口 双葉
藤本 浩之	森 高宏
森近 崎	綿本 裕司
松井 咲	吉村 稔訓
堀 宮崎	高宏
友貴 嵩	千世 恵一
森本 武司	北浦 千世
大介 武司	



【事務】
事務長
課長
係長
課長補佐
参考事務
参考事務
参考事務
参考事務

山本 千尋
渡邊ユカリ
渥美由希子
井本 奈緒
加藤 加奈
小貝 真未
下井みどり
種谷 悠
平井 綾香
廣瀬左知子
本庄 義正
松井 拓也
瀬古口 浩之
山中 正三
吉岡 伸浩
寺井 公彦
上田 高央
竹本 春美
小西 千尋
佐々木奈生
川口 双葉
森 高宏
綿本 裕司
吉村 稔訓
高宏
千世 恵一

横田 淳
Luke Rigano
天野 辰夫
大谷 和久
郡 二朗
清水 香織
谷野 規子
比良 直美
平井維久子
福西 孝爾
前田みどり
三浦 真人
瀬古口 浩之
山中 正三
吉岡 伸浩
寺井 公彦
上田 高央
竹本 春美
小西 千尋
佐々木奈生
川口 双葉
森 高宏
綿本 裕司
吉村 稔訓
高宏
千世 恵一

会員寄稿

平成十九年卒業
奥山 敬史
(教科 保健体育)



卒業生の

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。高校時代に培つたことを活かして様々な方面でご活躍されていることでしょう。本校は今年で創立八十九年を迎え、私もその歴史の中で卒業生の一人であることを誇りに思ふと同時に、多くの先輩方や後輩達がいることを光榮に思います。私は平成二十五年度より、本校の教員として勤務させて頂き、日々生徒とふれあうことの喜びを感じています。この度、副担任として初めて卒業生を送り出すことになり、自身が在校していた時のこと思い出しました。

現在から遡る事、十年前に本校へと入学した私は、期待と不安の入り混じる想いでいっぱいであつたことを鮮明に覚えていました。高校三年間で勉強への取り組みでは先生方がらきめ細やかな指導を頂き、多くの思い出を作り、部活動では仲間と絆を深め、充実した高校生活を過ごしました。時には悲しいこと、苦しいこともありました。先生方の支えがあり、学校生活をともに過ごした友人や仲間がいてくれたからこそ乗り越えることができたと思います。また、その経験が私の人生において大きな財産となりました。今までに卒業された皆様にとっても高校三年間で得たものは

今もかけがえのない財産であることでしょう。永き伝統と歴史を受け継ぎ、次世代へと伝えていくことが私の使命であると考えています。これから本校を卒業し、社会へと羽ばたいていく生徒たちにとつて多くの英知や思い出を育む場として、本校の発展に貢献できるように頑張りたいと思います。

そして最後に、皆様の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。



平成十七年卒業

(教科 国語・社会)



私が奈良大学附属高等学校を卒業して、八年が過ぎました。卒業後は高知大学へ進学し、奈良県の私立高校で常勤講師を三年した後、平成二十五年度から母校である、奈良大学附属高等学校の教員として勤務することとなりました。

高校入学当初は、学校生活がとても不安でした。もともと本意で入学したわけではなかったので、正直やつていけるのだろうかという気持ちでいっぱいでした。しかし、そんな不安も一瞬で消えることとなりました。それは、現在でも関わりのある友人、すばらしく、尊敬できる先生方との出会いがあつたからです。

私は当時、普通科英語コースに入学しました。現在の英数コースや特進コース同様、七限授業や講習など勉強漬けの毎日でした。そのため、クラス全体が進学の意識が高

平成十七年卒業
大垣 錦史
(教科 国語・社会)
私が奈良
大学附属高等
学校を卒
業して、早
八年が過ぎました。卒業後は
高知大学へ進学し、奈良県の
私立高校で常勤講師を三年し
た後、平成二十五年度から母
校である、奈良大学附属高等
学校の教員として勤務するこ
ととなりました。

く、国公立大、関関同立など
の大学を目指していました。
私自身は入学当初から国公立
大学を志望し、現役合格を目指
していました。しかし、将
來の夢や、希望の学部はな
く、ただ国公立大という志望
だけでした。高校生活を過ご
す中で、私は学校で関わる先
生方を尊敬し、憧れるようにな
りました。とても熱く、親
身になつて指導してくださる先
生方が多く、「自分も将来
こんな先生になりたい」と思
うようになり、国公立大の教

平成七年卒業

した。ときにと共に充実てきていたいと叱激励してくださり、大学進学の際は自分の事のように一緒にになって考えてくださつたのも恩師でした。今でも当時の親のような温情は忘れることはできません。その気持ちを正直に表現できていなかつたと、感謝の気持ちを伝えぬまま卒業したことを未だに後悔しております。

家庭がいない環境で育つはでした。しかし幸運にも私の周りにはいつも人のぬくもりがありました。親戚、職人さん、その仲間…。たくさんの人達に囲まれて本当に楽しく毎日を送っていました。そんな「ぬくもりのある生活が当たり前だと思っていたのですが、最近は奈良県の家庭事情も変わってきています。核家族化が進むと同時に地域でのコミュニケーションもどんどん薄くなっています。

高校入学当初は、学校生活がとても不安でした。もともと本意で入学したわけではなかったので、正直やつていけるのだろうかという気持ちでいっぱいでした。しかし、そんな不安も一瞬で消えることとなりました。それは、現在でも関わりのある友人、すばらしく、尊敬できる先生方との出会いがあつたからです。

育学部に進学し、教師を志望するようになりました。さらに、いつか母校である奈良大附属高等学校へ教員として戻り、私が尊敬し、憧れた先生方のような教師になり、因返しがしたいと強く思うようになりました。

卒業して十八年の月日が流れました。

残念ながら現役では国公立大に行くことはできませんでした。しかし、一年間予備校に通い、国立大学の教育学部に進学することができました。大学では国語や歴史の教員免許を取得しました。卒業後、他校での講師経験を経て、念願であった母校の教

卒業して十八年の月日が流れました。 思い返せば私の高校生活は恩師の温情（ぬくもり）に恵まれた三年間でした。兄も同じ出身校ということもあり、兄がお世話になつた先生方に何かと気にかけていただきました。在学当時は学校名も正強高校で大和西大寺駅から徒歩三分の好立地の所にありました。現在はマンションになりました。形を変え、今となつてはかつての面影もなく駅から校門まで走つたのをよく覚えていました。正確にいうと遅刻の常習者といった方が合っているかもしれません。当時を振り返

平成十七年卒業

大垣 圭史

(教科 国語・社会)

私が奈良

大学附属高

等学校を卒

業して、早

く、ただ国公立大という志望

だけでした。高校生活を過ご

す中で、私は学校で関わる先

生方を尊敬し、憧れるようにな

りました。とても熱く、親

身になつて指導してくださる

先生方が多く、「自分も将来

こんな先生になりたい」と思

うようになり、国公立大の教

育学部に進学し、教師を志望

するようになりました。さら

に、いつか母校である奈良大

学附属高等学校へ教員として

戻り、私が尊敬し、憧れた先

生方のような教師になり、恩

返しがしたいと強く思うよう

になりました。

残念ながら現役では国公立

大学に行くことはできませんで

した。しかし、一年間予備校

で毎わりのある友人、すば

らしく、尊敬できる先生方と

の出会いがあつたからです。

く、国公立大、関関同立など
の大学を目指していました。
私自身は入学当初から国公立
大学を志望し、現役合格を目指
していました。しかし、将

來の夢や、希望の学部はな
く、ただ国公立大という志望
だけでした。高校生活を過ご
す中で、私は学校で関わる先
生方を尊敬し、憧れるようにな
りました。とても熱く、親

身になつて指導してくださる
先生方が多く、「自分も将来

こんな先生になりたい」と思
うようになり、国公立大の教
育学部に進学し、教師を志望

するようになりました。さら

に、いつか母校である奈良大

学附属高等学校へ教員として

戻り、私が尊敬し、憧れた先

生方のような教師になり、恩

返しがしたいと強く思うよう

となりました。それは、現在

壇に立つことができました。
そして、私が高校生のときに
お世話になつた先生方と共に
働くことができてとても充実
した毎日を送ることができて
います。

今までお世話になつた分、
奈良大学附属高校に恩返しを
し、より一層学校が活発にな
るように努力していきたいと
思います。

春期の難しい年頃の私を時に
叱激励してくださいり、大学進
学の際は自分の事のように一
緒になつて考えてくださつた
のも恩師でした。今でも当時
の親のような温情は忘れるこ
とはできません。その気持ち
を正直に表現できていなかつ
たと、感謝の気持ちを伝えぬ
まま卒業したこと未だに後
悔しております。

その後、大学、大学院へと
進みゼネコンに就職。父が経
営する木村建設へ再就職。現
在は小さいながらも家業であ
る工務店を経営する立場とな
つて二年が経ちました。家
族の「一生に一度の大
きな買い物」と言われるぐら
い責任重大で、ご家族の長年
の「想い」を「カタチ」する、
やり直しのきかない、失敗が
許されないお仕事です。

木村 昌樹

平成七年卒業

高校入学当初は、学校生活
がとても不安でした。もとも
と本意で入学したわけではな
かつたので、正直やつていけ
るのだろうかという気持ちで
いっぱいでした。しかし、そ
んな不安も一瞬で消えること
となりました。それは、現在

ととなりました。

高校入学当初は、学校生活
がとても不安でした。もとも
と本意で入学したわけではな
かつたので、正直やつていけ
るのだろうかという気持ちで
いっぱいでした。しかし、そ
んな不安も一瞬で消えること
となりました。それは、現在

ととなりました。

高校入学当初は、学校生活
がとても不安でした。もとも
と本意で入学したわけではな
かつたので、正直やつていけ
るのだろうかという気持ちで
いっぱいでした。しかし、そ
んな不安も一瞬で消えること
となりました。それは、現在

ととなりました。

高校入学当初は、学校生活
がとても不安でした。もとも
と本意で入学したわけではな
かつたので、正直やつていけ
るのだろうかという気持ちで
いっぱいでした。しかし、そ
んな不安も一瞬で消えること
となりました。それは、現在

ととなりました。

高校入学当初は、学校生活
がとても不安でした。もとも
と本意で入学したわけではな
かつたので、正直やつていけ
るのだろうかという気持ちで
いっぱいでした。しかし、そ
んな不安も一瞬で消えること
となりました。それは、現在

ととなりました。

高校入学当初は、学校生活
がとても不安でした。もとも
と本意で入学したわけではな
かつたので、正直やつていけ
るのだろうかという気持ちで
いっぱいでした。しかし、そ
んな不安も一瞬で消えること
となりました。それは、現在

家づくりと街づくりを通じて、もう一度昔のようなあたたかく支えあえるような社会にしたいと考えています。途方ももなく大きな夢ではあります、挫けそうなときは母校の創設者、薮内敬治郎先生の建学の精神「努力が天才なり」を思い出し、「ぬくもりのある家族・支えあえる社会」の実現に向けてコツコツ邁進して参ります。

私は当時、普通科英語コースに入学しました。現在の英数コースや特進コース同様、七限授業や講習など勉強漬けの毎日でした。そのため、クラス全体が進学の意識が高
に通い、国立大学の教育学部に進学することができます。大学では国語や歴史の教員免許を取得しました。大学卒業後、他校での講師経験を経て、念願であつた母校の教

した。ときにと共にも充実てきて、ときには厳しい時にはやさしく、叱咤激励してくださり、大学進学の際は自分の事のように一緒になつて考えてくださったのも恩師でした。今でも当時の親のような温情は忘れることはできません。その気持ちを正直に表現できていなかつたと、感謝の気持ちを伝えぬまま卒業したことを未だに後悔しております。

その後、大学、大学院へと進みゼネコンに就職。父が経営する木村建設へ再就職。現在は小さいながらも家業である工務店を経営する立場となつて二年が経ちました。家業というものは「一生に一度の大好きな買い物」と言われるぐらい責任重大で、ご家族の長年の「想い」を「カタチ」するやり直しのきかない、失敗が許されないお仕事です。

特に最近、強く感じるのが、家族や地域社会のつながり・ぬくもりの希薄化です。私が小さい頃から父も母も木村建設を切り盛りしていくたので、本来であれば家に誰もいるかばかり校門までいまと常にあります。この常習振り返

最後に私を担任して下さった武田先生、吉川先生、中川先生。そして、兄ともどもお世話になつた杉山先生、澤田先生、本当に三年間ありがとうございました。

卒業生紹介

昭和三十五年卒業 梅尾峻弘さん 平成二十六年文化庁長官表彰に選ばれる



梅尾さんは、高等学校在学中から家業である畳製作を手伝い、昭和三十五年に本校を卒業すると同時に、畳工である実父の梅尾三郎氏に師事した。父親のもと畳製作の技術を取得し、昭和四十六年には独立して梅尾畳店を設立。このころは、高度経成長期で、民家や団地の畳張り替えなど仕事は引きもきらなかつた。毎日食事の時間も惜しんで作業し、周囲の職人の技を学びながら腕を磨いてきた。

梅尾さんは、多様な規模や形状の部屋に合わせて、規格外の畳を加工し、特殊な紋様を紋台わせに注意して縫い付け、敷込む技術で、その一連の工程には高度な熟練を要する。

梅尾さんは独立後、官公庁及び近隣の寺院において畳製作に従事していたが、平成十一年の重要文化財藤岡家住宅主屋（奈良市）の畳工事を皮切りに、重要文化財掘家住宅主屋（五條市）、奈良県指定有形文化財吉川家住宅（橿原市）、重要文化財宝山寺獅子閣（生駒市）、重要文化財當

畳の製作は、部屋の形状を正確に採寸して個々の畳床を加工し、調整する必要がある。また文化財建造物の畳縁には装飾的な「紋縁」もんべりが使用されており、それを縫い付ける場合には、隣り合う、

正確に採寸して個々の畳床を加工し、調整する必要がある。また文化財建造物の畳縁には装飾的な「紋縁」もんべりが使用されており、それを縫い付ける場合には、隣り合う、

麻奥院方丈（葛城市）、など、奈良県を中心に国宝・重要文化財の保存修理に継続的に従事してこられました。

このほか所属する文化財畠保存会（選定保存技術「畠製作」保存団体）の主催する見学会にも参加、様々な技術について見識を広め、技術の研鑽にも精進されている。また、

その技術を自社の若手畠工に伝えており、次代を担う後継者育成にも尽力するなど、文化財建造物の保護及び後継者の育成に関して多大な貢献をされ

た技術を駆使して従事するとともに、次代を担う後継者育成にも尽力するなど、文化財建造物の保護及び後継者の育成に関しても多く貢献されています。

周囲には後継者不足で閉めた技術を駆使して従事するとともに、次代を担う後継者育成にも尽力するなど、文化財建造物の保護及び後継者の育成に関しても多く貢献されています。

畠はまさに日本の財産、多温の風土に適し、いぐさの香りは気持ちを落ち着かせます。古来の技術を絶やさぬよう、これからも技術を学びつつ、多くの若手にも受け継いでいるのです。

◆一月十五日付 朝日新聞に掲載

畠職人 熟練の技

梅尾峻弘さん
文化庁長官表彰

国重要文化財の家屋や寺院の畠修理を手がけてきた奈良市紀寺町の畠職人、梅尾峻弘さん(72)が今年度の文化庁長官表彰に選ばれた。畠職人になって半世紀あまり。文化財の建物に使われる畠は、装飾性に富み、修理が難しいといふ。そこを熟練の技で直してきた。

父の代まで4代続いた畠屋で育った。子どもの頃から家業を手伝い、高校時代には既に一通りの仕事を覚えていた。卒業同時に働き始め、1971年に独立。高度経成長期で、民家や団地の畠張り替えなどが仕事は引きも切らなかつた。毎日食事の時間も惜しんで作業し、周囲の職人の技を学びながら腕を磨いてきた。

仕事の幅を広げようと、近所の元興寺にある茶室の畠修

理を請け負ったのがきっかけで、文化財の畠修理も始めた。98年の藤岡家住宅(奈良市)以来、堀家住宅(五條市)、宝山寺獅子閣(生駒市)、当麻奥院方丈(葛城市)など、いずれも国重要文化財の保存修理を手がけた。

古くから残る民家や寺院では、畠の縁に紋が施された「紋縁」を使っていることが多く、接する畠同士の辺や角でちり絞をそろえる必要がある。

は、畠の縁に紋が施された「紋縁」を使っていることが多く、接する畠同士の辺や角でちり絞をそろえる必要がある。

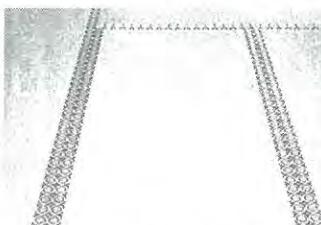
理を請け負ったのがきっかけで、文化財の畠修理も始めた。98年の藤岡家住宅(奈良市)以来、堀家住宅(五條市)、宝山寺獅子閣(生駒市)、当麻奥院方丈(葛城市)など、いずれも国重要文化財の保存修理を手がけた。

古くから残る民家や寺院では、畠の縁に紋が施された「紋縁」を使っていることが多く、接する畠同士の辺や角でちり絞をそろえる必要がある。



「縁をつかむ手の幅で厚みを測るんですよ」と話す梅尾峻弘さん=奈良市紀寺町

国重文を修理「学びつつ受け継ぐ」



梅尾さんが手がけた紋縁付きの畠。丸形の紋が、接する畠全てで

た店も多いなか、梅尾さんが営む梅尾畠店では長男の厚弘さん(39)ら2人が働く。「多湿の風土に適し、いぐさの香りは気持ちを落ち着かせる。畠は、まさに日本の財産。古来の技術を絶やさぬよう、今後も技を学びつつ、若手にも受け継いでいきたい」(松山商幹)

平成25年度のクラブの主な活動状況



- * 全国高校総体（佐賀県）
八月七日～九日
- ・ 団体 予選リーグ敗退
- ・ 個人 2回戦敗退
- * 全国高校選抜県予選
- ・ 団体 優勝

*全国高校総体県予選
六月九日

A black and white photograph showing a judo player in a white gi and black belt. The player is in a low, forward-leaning stance, possibly preparing for a throw or a takedown. Their head is down, and their body is angled forward. In the background, another player in a white gi is visible, also in a similar stance. The setting appears to be an indoor judo mat.

*近畿高等学校選手権大会県
予選 1位 団体の部
演技の部 1位
個人部 1位、2位
団体の部 2位

体育クラブ

春華近幾也

■剣道(男子)
ベスト8



- * 春季近畿地区高等学校野球大会
- 五月～六月 ベスト8
- * 奈良市民大会
- ベスト4
- * 全国高等学校野球選手権奈良大会

■ バリュートン

* 全国高等学校野球選手権奈良大会
ベスト4



* 全国高校選抜大会(春日井市)
・予選敗退

■ バドミントン

*女子シングルス ベスト16
・全国選抜近畿地区予選
十二月二十四～二十六日

決勝進出

* 全国高等学校野球選手権奈良大会 ベスト4



* 全国高校選抜大会(春日井市) ベスト16
・予選敗退

■バドミントン

* 全国選抜近畿地区予選 ベスト16
六月十三日～十六日
男子ハンマー投42m35cm
(決勝進出ならず)

十二月二十四～二十六日

■剣道（女子）

平成25年度のクラブの主な活動状況

90 kg 3位 100 kg 超3位

